

創立 130 周年記念特別研究費（なにわ大阪研究）の 研究部門とテーマの例示

2017 年 11 月 1 日

学 長

関西大学なにわ大阪研究センターにおいて構想している「ネットワークとしての大阪研究の拠点」を形成するための研究部門は以下のとおりです。当該研究費の申請にあたっては、各部門における研究テーマの例示を参考にして、該当する研究部門を選択してください。

① 本学のルーツを探る関西法律学校・泊園書院部門

(テーマの例示)

- ・ 関西大学のルーツ「関西法律学校」に関する調査研究
- ・ 知的源流のひとつ「泊園書院」に関する調査研究
- ・ 関西大学ゆかりの建物群と村野藤吾に関する調査研究

② 永続的な地域研究のハブを宣言する大阪地域研究部門

(テーマの例示)

- ・ 道頓堀商店会との連携協定に基づく調査研究と成果の発信
- ・ 中村儀右衛門の設計図に基づく道頓堀五座・芝居小屋の復元研究（精密模型と検証等を含む）
- ・ 祭り文化：住吉大社をはじめとする文化遺産の研究
- ・ 大阪の文学と芸能：中之島図書館・大阪文芸資料などを対象とする研究
- ・ 大阪市北区との連携協定に基づく調査研究と成果の発信
- ・ 天神橋商店連合会との連携・楽歳天三（地域研究・地域連携拠点：天三アトリエ）を軸とした調査研究と成果の発信
- ・ 吹田市・高槻市・堺市・池田市など連携協定を結ぶ大阪府下の自治体と共同で行う地域研究

③ 上方演芸の研究部門

(テーマの例示)

- ・ 関西大学の所蔵資料を活用する研究
- ・ 大阪と「笑い」の文化に関する研究

④ 歴史認証と CG 技術、社会科学、工学の英知を結集した景観再現・デジタルアーカイブズ部門

(テーマの例示)

- ・ CG による大正期の道頓堀界限の景観の再現
- ・ 中村儀右衛門の設計図に基づく道頓堀五座・芝居小屋の復元研究（デジタルによる可視化・アーカイブズ化等）
- ・ 「豊臣期大坂図屏風」のデジタル解析による研究
- ・ 大阪都市再生に関する研究
- ・ なにわ大阪の鳥瞰シミュレーションによる可視化
- ・ 大岡春ト絵巻の高精細デジタル画像と地形マッピング研究

⑤ 大阪の防災・減災と環境部門

(テーマの例示)

- ・ 大阪住民の防災意識の啓蒙促進と被災地から学ぶ防災・減災の知恵に関する研究
- ・ 大阪市及び関西圏の防災・減災に関する研究
- ・ 大阪の自然緑地と天満天神の水に関する研究と社会貢献
- ・ 大阪の都市景観の保全と未来志向型都市計画の提案

⑥ 上記の研究部門以外で、応募者自らが提案する研究

- ・ 上記以外のネットワークとして的大阪研究の拠点形成に資すると思われることがらをキーワードとする多彩な研究

＊ 自由テーマから応募する者は、研究計画書においてテーマ名を明示すること。

(参考)

関西大学なにわ大阪研究センター構想

◎なにわ大阪研究センター設置の意義と目的

「大阪」に生まれ育まれてきた大学としての社会的な使命と期待に応えるため、この地を中心に集積してきた本学の豊富な研究と連携の実績をもとに、すぐれた情報を発信していく拠点として「関西大学なにわ大阪研究センター」を設立する。

コンセプトの第一は、文部科学省から採択を受けた「大阪都市遺産研究センター」による大阪の歴史、文化、芸能、景観等に関する研究実績と成果及びハードウェアを核としつつ、同省をはじめ各種団体等の補助金や学内資金等で醸成された各分野の研究チームによる研究と連携の実績を結集し、21世紀におけるネットワークとしての「大阪研究の拠点」を形成することにある。

第二に、総合大学である本学の特色を活かし、人文科学・社会科学・情報通信学・防災学・理工学等の各分野を統合する「総合科学」の粋を集めて「大阪を中心とした地域研究のハブ」を形成し、大阪から全国に、さらには世界に向けて特徴的な研究成果と知的な興味と魅力にあふれた情報を発信することにある。

「なにわ大阪」について

「なにわ大阪」には大阪の歴史・文化遺産という過去のストックと、常に未来に向けて発信する現在のフローとが含意されている。大阪を冠する機構・団体、あるいは「なにわ」単独の呼称もあるが、「なにわ大阪」とした表現は希少性が高い。このためセンター名称にこの言葉を使用している。

以 上